

日本学会議
オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会
オープンサイエンス企画分科会
オープンサイエンス・データ利活用推進小委員会（第25期・第4回）
議事要旨

1. 日時 令和4年6月28日（火）19:30～21:30
2. 会場 オンライン開催（Zoom）
出席者（五十音順、敬称略）：生貝 直人、喜連川 優、小安 重夫、武田 洋幸、
永井 良三、林 和弘、菱田 公一
説明者：桜田 一洋（慶應義塾大学 医学部 石井・石橋記念講座（拡張知能医学）
教授）
3. 議題
 - (1) 前回議事要旨の確認
 - (2) 話題提供：「オープンサイエンス推進のための推論の標準化と科学のパラダイムシフト」桜田先生（慶應義塾大学）
 - (3) その他
4. 配布資料
資料1：オープンサイエンス推進のため推論の標準化と科学のパラダイムシフト
5. 議事
 - 桜田教授により、「オープンサイエンス推進のための推論の標準化と科学のパラダイムシフト」と題した話題提供が行われた。
 - 膨大なデータが生まれる社会において、新たな知の非対称性が生まれる中、オープンサイエンスによって、推論の標準化やそれに基づく科学のパラダイムシフトが起こり、知が再構築される。そのことによって、新たな社会課題解決の展望が生まれる。
 - 事後対策から予測による予防、仮説や原理駆動から、データ駆動およびその先の拡張知能（Extended Intelligence）へ発展する。
 - 形式知による表現、仮説検証による推論、および、データ駆動型推論（パターン認識）どちらにも課題があり、それを克服するためにオープンサイエンスが必要。
 - 論文の再現性を保証する仕組みとしてもオープンサイエンスは重要。
 - オープンサイエンスは、科学のパラダイム転換と技術的な標準化によって推進さ

れ、結果として新たな医療に必要な説明原理 (Prediction coding) や拡張知能が創造される。

- 以上の話題提供をもとに議論を行った。また、本講演とディスカッションを踏まえ、その要点を答申に含めることで今後の検討を進めることとした。
- 次回 (第5回) は、高橋 恒一氏 (理化学研究所生命機能科学研究センターチームリーダー) に打診することとした。

以上